

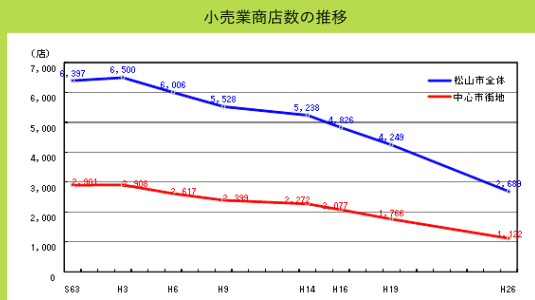
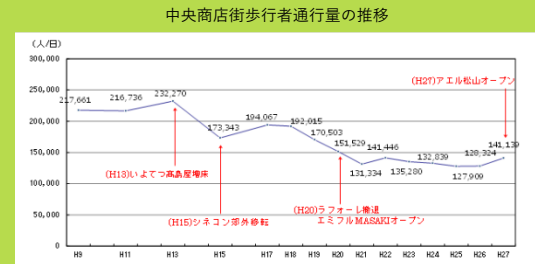
## 中心市街地の現状と課題

松山市の中心市街地は、銀天街・大街道の2つの商店街が中核をなしています。



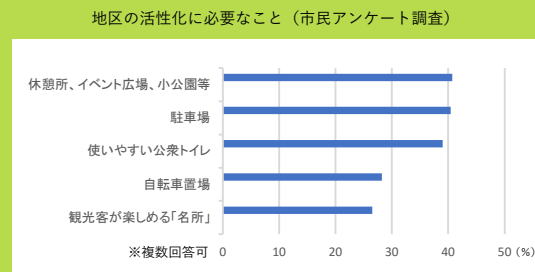
しかしながら、郊外ショッピングモールの進出やネット販売の普及によって、歩行者通行量や小売業の商店数・販売額は減少傾向が続いています。

平成27年は複合商業施設「アエル松山」のオープンに伴い、歩行者通行量が上昇しましたが、この賑わいを継続・波及することが求められています。



昨今、賑わいを創出する手法として「公共空間の活用」が各地で行われています。街なかに居心地のいい空間をつくることで人が集まり、まちに賑わいが生まれるという仕組みです。

松山市が行った商店街来街者へのニーズ調査でも、商店街を活性化させるために必要なものとして「休憩所やイベント広場」が多く挙げられていました。



## 対策 (実証実験)

—実施体制—

有識者・地元・民間で構成する検討組織を設置し、実証実験の内容や検証方法を検討しました。

—実験エリアの選定—

大街道は市内最大の道路幅員(約15m)を誇る商店街。広々とした空間で、マルシェやパンマーケットなどのイベントも時々行われています。

大街道の中間地点にあり、空き店舗が集中している大街道2丁目南エリアを実験エリアに選定しました。



—実験内容—

効果的な公共空間の活用方法とその経費や労力、持続的・自立的な管理・運営手法の検証するべく、大街道の歩道に座り場をつくりました。

<基本アイテム>

- ・イス (30脚)
- ・ベンチ (4脚)
- ・テーブル (10基)
- ・照明 (3台)
- ・植栽 (9セット)

どのような空間が効果的か検証するため、基本アイテムに加えて2パターンの実証実験を行いました。

座り場のアイテム



## 実施・効果検証

第1回 (H27.10.24~11.1)  
「座り場と芝生広場(くつろぎひろま)」  
人工芝・クッション・絵本で、広がりのある空間に



第2回 (H27.11.21~11.29)  
「座り場と交換型本屋(KAEBON)」  
本棚・ブランケットで、立ち寄りたくなる空間に



—利用者の評価—

アンケート結果によると、どちらのパターンも利用者の約95%は満足と回答しており、幅広い年代に休憩や飲食などで利用されました。

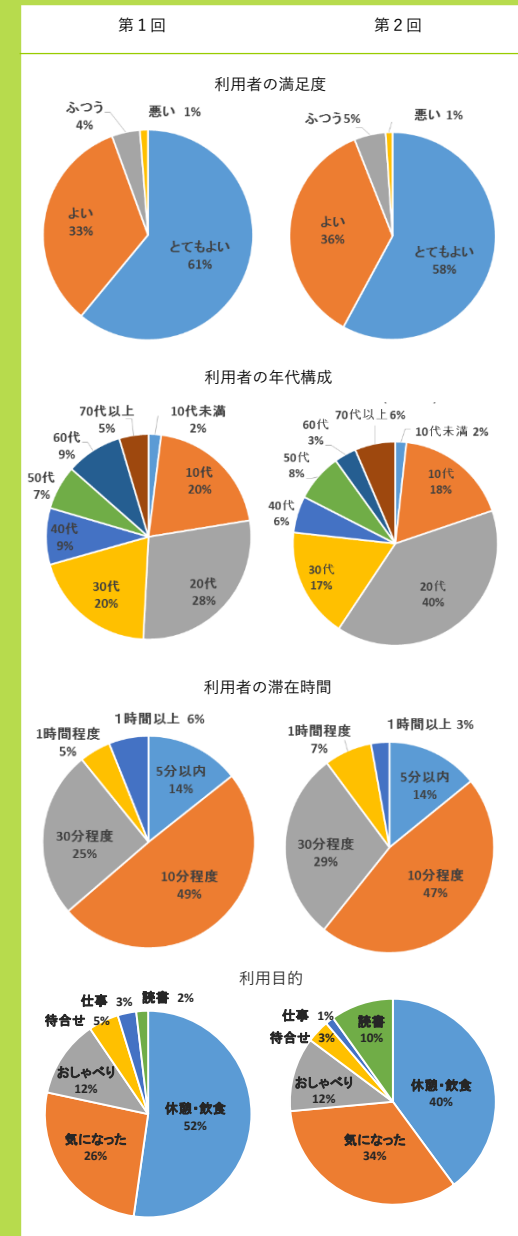
- 休憩場所ができて嬉しい。今後も続けてほしい。
- ここに座りに来ることが外に出る理由になる。
- 喫茶店に入るほどでもないけど、少し休みたいというときに重宝した。
- カフェなどが併設されると、もっと利用者が増えると思う。
- 利用者が少ないと人目が気になる。

—近隣店舗の評価—

近隣店舗へのヒアリングでも、常設を希望する声が多く挙がり、座り場の設置・運営に前向きな事業オーナーも現れました。

- お客さんから批判的な意見は全く無かった。
- 集客につながる空間づくりができることが分かった。
- 店頭で販売している商品が座っている方の目に入り、購入されることがあった。

—利用者アンケート結果抜粋—



—常設化に向けた課題—

実験結果から、座り場の常設化に向けて次の課題を整理しました。

① 質の確保

居心地のいい空間の水準について、守るべきポイントを精査するほか、質を確保・維持する仕組みづくりが必要。

② 持続的・自立的な管理・運営方法

実施主体について、商店街振興組合が共同で運営する方法、店舗オーナーなど特定の管理者に委託する方法などを比較し、実効性のある実施体制を検討。